

雑 桜 (わかざくら)

～南中学校長室より～

平成 28 年度 NO.9

平成 28 年 12 月 1 日



Be Proud Of Us

先週から急に寒くなり一気に生駒山が色づきました。大きな行事が続いた 2 学期ですが、子どもたちの行事のたびに成長する姿に何度も感動を覚えました。さて、あっと言う間に、「師走」です。師走の語源は「12 月になると、家々で師（僧）を迎えて読経などの仏事を行うため、師が忙しく走り回るということから「師馳（しは）せ月」といったのを誤ったものだ」という説をはじめいくつかあると聞きます。 いずれにしる「忙しい」というイメージ、そして 2016 年のまとめの月です。

音楽発表会 70周年式典 (11月1日)

多くの保護者や地域の方々に来校、参観にいただきました。音楽発表会は、「さすが 3 年生」と思わせる合唱、合奏が披露されました。すばらしい 3 年生徒を「誇り」に感じました。とてもすてきでした。1,2 年生も真剣に取り組んでくれました。

その後、ドローン撮影を行いました。みんなの協力があってスムーズに終わることができました。全校生徒に後日配布します。(3 年生は、アルバムにも掲載します。)

昼食をはさみハモニカ演奏。お二人の先生の軽快な話術の司会。ハモニカでこんな音が出せるのかと感動をおぼえました。

(式辞、誓いの言葉、新聞記事を裏面に掲載しています。)

3 年進路懇談会 (11月11日～16日)

進路に向けての懇談会、御苦労さまでした。夢と現実の挟間で、子どもも親も悩むところです。十分に家庭で相談して決定してください。また、不安や疑問があれば、学校へ連絡をして下さい。大半の私立高校では「入学説明会」や「体験入学」を終了していますが、説明や体験入学を個別にしてくれる所もあります。問い合わせをしてみてください。奈良県で高校中退者年間 500 人程、その内高校 1 年生が過半数をしめるそうです。「高校に行けばいい」「高校に入ればいい」ではなく、「高校で何をするか」が大切です。

12 月の三者懇談会では、私立高校については決定していかなければなりません。その時期から、入試関係の書類の担任との受け渡しが始まります。くれぐれも期限に遅れるようなことがないように家庭でのチェックもお願いします。一人の遅れが全体の遅れとなってしまいます。

2 年職場体験 (11月15日～17日)

17 事業所等において、職場体験を実施しました。南子ども園での実習ができなかったり等、若干のトラブルはありましたが大抵よく終了することができました。机上の学習では得ることのできないインパクトも感動もあったと思います。「苦しかったこと」「楽しかったこと」「達成感・充実感」「人間関係の大切さ」「親や保護者への感謝」等々、子どもたちにとっては、貴重な体験であったと思います。「どの子どもも仕事に熱心に取り組んでいた。」との報告を受けています。学校では見ることのできない「顔」にたくさん出会いました。今後の日々の生活に生かしてほしいと思います。

あなたの子供は大丈夫!? 不登校になりやすい子とその対応とは!?

Book Bang 11/9(水) 7:00 配信

平成 27 年度の「学校基本調査」(文部科学省調べ)によると、中学生全体から見た不登校児童の割合は 2.76%で、36 人に 1 人が不登校の状態にあるといわれています。果たして、中学校の現場では何が起きているのでしょうか？

◆思春期の子供を襲う「起立性調整障害」とは？

現在も 200 人を超える不登校児をサポートしている不登校支援センターのカウンセラー中山智樹氏は、『娘が不登校になりました。「うちの子は関係ない」と思った』(著・小林薫)の解説コラムでこう語ります。「不登校」と聞いて、一番はじめに大人たちが思い浮かべることは「いじめ」や「学校関係のトラブル」ですが、現在は学校の配慮やスクールカウンセラーの設置といった環境の整備で、それが原因となることは少ないようです。実は「朝、起きられない」ということが、突き詰めるとききっかけになることが多いのです。これは医学的にいうと「起立性調整障害」という症状で、おもに思春期の子供に多くみられます。ストレスや体の成長にともなう自立神経の異常で体内の生活リズムが崩れ、「朝起きられないが、夕方から夜になるとウソのように元気になってしまう」ように見えます。しかし、サボることができないマジメな子供は、親御さんたちに「どうして学校にいけないの？」と聞かれると「起きられないから」とはいえず、その理由を必死に考え出します。「おなかが痛いから」「学校の先生が嫌いだから」など、後付けで考え出したその理由にしばられてしまい、ますます登校することが困難になってしまうのです。ぼんやりした原因から、さらに後付けされた「いいわけ」によって、ますます学校に行くことが難しくなってしまう……これが現代の不登校児のリアルな姿なのかもしれません。

◆「無理やり学校に連れていく」はNG！

小林薫さんの中学 2 年生になる娘も、ある日突然朝になると「おなかが痛い」と布団の中から出てこず、学校にいけなくなってしまいます。同書は「今まで、楽しそうに学校に通っていたのに、どうして!？」と混乱しながら、母親である小林さんが、フリースクールを探したり、私立中学へ娘を編入させたり、なんとか娘の通えるところを探し奮闘する姿を描いています。誰でも突然「不登校児」になってしまう可能性があります。そうなった時、保護者はどう対処すればいいのか。上記、中山氏は「原因を聞きすぎること」「ハードルを下げすぎること」「無理やり学校に連れていくこと」がNG行動だと語ります。不安であっても直接登校を促進させることは第三者に任せ、「子供が話をしてきたら聞く」というスタンスを守り、家庭を「安心できる場所」にしていくことが、不登校脱出の第一歩となりそうです。

人(子ども)を育てる

「やってみせて、言って聞かせて、やらせてみて、ほめてやらねば人は動かじ。話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず。」

山本 五十六 (やまもと いそろく、明治 17 年 (1884 年) 4 月 4 日 - 昭和 18 年 (1943 年) 4 月 18 日) は、大日本帝国海軍の軍人で、26、27 代連合艦隊司令長官を務めた人物です。そんな彼の残した名言の中でもっとも有名な名言です。

1 日、「学校評価アンケート」を子どもに渡します。お手数をおかけしますが、忌憚のないご意見をお聞かせ下さい。学校として「できる」ことについては、来年度の「方針」に積極的に取り入れ、改善を図っていきたいと思います。「学校アンケートをしてもらうにあたって」等を参考にしながら回答をお願いします。締切は 16 日です。よろしくお願いします。

学校カウンセラーの予定(12月)

岸田カウンセラー 2日(金) 9日(金) 16日(金)

吉村カウンセラー 15日(木)

裏面あり

式 辞

生駒の山々が色づき始め、校庭に爽秋の柔らかな光と風が注ぐ、今日の佳き日、ここに、生駒南中学校創立七十周年記念式典を来賓各位の御臨席を得まして、盛大に挙行できますことは、この上もない慶びでございます。

本校は昭和二十二年四月二十二日、六・三制による教育の大改革により、生駒南小学校に併設、生駒村立生駒南中学校として、信貴の連峰を臨む萩原の地に呱呱の声をあげました。それ以来、豊かな教育環境の中で着実に発展の道を歩んで参りました。本校を巣立った卒業生は六千百十三人を数え各方面で活躍をしておられます。

二代目校長獄田末次郎氏が次の様な手記を残されています。

「南生駒村立南中学校長に任命する」という辞令で、初代校長田端弥四郎先生の後任として赴任したのは、昭和25年4月のことであった。当時はまだ敗戦と占領政策のため虚脱状態となり、やっと飢餓の苦しみから脱しかけたような有様で、近鉄生駒駅前には闇市場がさかえていた。中学校は、発足以来、小学校が改築された残りの廃屋に等しいところでの間借り教室。音楽にオルガン1台。ピアノを小学校に借りに行く。運動場も共有。湯沸かし場もなし。電話も小学校へ走る。こんな有様の毎日の上に、途中で保育所も開設され、これも相住まいとなって、生徒の管理や危険防止などに苦心した。幸いに、職員一同の熱意ある一致団結によって、大過なく困難を切り抜けることができた。独立校舎がほしい、運動場がほしいの熱望は、やがて村長や村議の心を動かして、苦しい財政から建設の機運が向いてきた。全村民の奉仕による運動場建設。これには、職員、生徒も尊い汗を流してきた。それから年を追って、木造二階建て1棟、特別教室の平屋1棟、雨天体操場などの建設を果たし、小さいながらも独立校舎を持つ中学校となり、やがて生駒町に合併されて生駒南中学校と進んできた。」

「温故知新」という言葉があります。故きを温ねて、新しきを知るということですが、この周年の行事というのは、まさしくその時です。折に触れ先人の歩んだ道を思い出して、その時の想いや気概を知ると言うのは大切なことです。この学校ができたとき、創設当時の人々の、こんな学校であってほしい、こんな学校にしたいという切なる願いを思い、今自分たちはどうあったらよいのか、考える機会にしたいと思います。

その思いを私は、「あいさつ革命スクール南中 世界一あいさつが飛びかう学校」の実現に求めて生きていたいと思います。「あいさつ」は「私はあなたの存在を認めます。」という人権尊重の精神の基盤になります。全ての人の人権が守られる学校には、暴力やいじめはありません。笑顔あふれる学校の中で、だれもが自分のよさを発揮でき、友達のよさを学ぶことができます。また、そんな暖かい雰囲気の中で、学習や運動にも精一杯の頑張りを見せることができます。たった一言の「あいさつ」されど「あいさつ」「挨拶」は「学校をかえ」「人をかえ」「人生をかえます」。

私たちは70年目という大きな節目にいることを喜び、生駒南中学校の将来に向けて果たさなければならない重要な役割・責任を持っています。10年後、20年後、30年後の100周年にも「あいさつが飛び交う学校」であるよう、努力していきましょう。

最後になりましたが生駒南中学校をこよなく愛し、支えていただきました、生駒市教育委員会、地域の皆様をはじめ、生徒、PTAの方々など、多くの先輩諸氏の努力に感謝し、今後も生駒南中学校のよき伝統と校風を引き継ぎ、より発展させるために微力ではありますが、精進していくことを誓って70周年を祝う式辞といたします。

平成二十八年十一月一日

生駒市立生駒南中学校

校長 相木正則

生徒代表 （安野 航）挨拶

生駒の山々にも秋の風が吹き、木々も色づこうとしています。

今年、生駒南中学校は、創立七十周年という節目の年を迎えました。その式典が、多くの方々のご臨席を賜り、かくも盛大に挙行されることを、光栄に感じています。記念すべきこの年に、生駒南中学校の生徒として在籍できましたことは、非常に大きな喜びです。

さて、南中学校は昭和二十二年に開校され、以後六一一三人の卒業生が巣立ちました。七十年という長い年月の重みは、僕たちの想像の遠く及ばないところです。その間、先輩方には、喜びや悲しみ、そして数々の栄光、ひとことでは語り尽くせない多くのドラマがあったと思います。地域の方々に暖かく見守られる中で、先輩方が築かれた伝統ある積み重ねの上に、今の南中学校があると言えます。

僕は、南中学校が誇れるものと言えば、やはり「あいさつ」だと思います。「あいさつ革命スクール 世界一あいさつが飛び交う学校」というスローガンのもと、僕たちは日々大きな声で気持ちよくあいさつをするように心がけています。「あいさつ」をするということは、お互いの心を通い合わせ、絆を深める第一歩だと思いますので、これからも僕たちはこの伝統を大切に受け継いでいきたいです。

また、何事にも一生懸命取り組むことも、南中学校のすばらしいところです。小さな学校ですが、全校生徒が一丸となって学校行事に取り組み、おおいに盛り上がり、とても充実した時間を過ごしています。三年生になった今、クラスや学年での団結の底力というものを、身にしみてより強く実感しています。体育大会でのフィナーレの「南中ソーラン」で全校生徒が気持ちを一つにして堂々と踊る姿は、南中学校の躍動を感じさせるものだと思います。

このように僕たちが、生き生きとした中学校生活を送ることができるのは、自主・協同・実践という校訓のもと、大切に伝統を築きあげてこられた先輩方のおかげです。保護者や地域のみなさまや先生方の支えに感謝して、南中学校の輝かしい未来に向けて、さらなる飛躍をしていきたいです。七十年の歴史の上に立つ南中学校の伝統を受け継ぎ、そのよさをさらに生かして次に引き継いでいくことを、今ここに誓い、生徒代表の挨拶とさせていただきます。